

ドローンを用いた構造物点検サービスや

AR道路附属物支援システム

古河産業

古河産業（東京都港区

新橋四一三、〇〇

三―五四〇五―六〇一

）は、七月二十四日、

二十六日まで東京ビッグ

サイトで開催された「メ

ンテナンス・レジリエ

ンスTOKYO」（インフ

ラ検査・維持管理展）

に、「ドローンを用いた

構造物点検サービス」

や、「AR道路附属物点

検支援システム」などを

紹介し注目を集めた。

「ドローンを用いた構

造物点検サービス」は、

設備維持管理・調査・測



道路附属物点検支援システム

ク調査では、危険な自視
点検を安全・迅速に実施
できる。大気中の成分調
査においては、上空の状
態をダイレクトに観測測
定できるので、上空の汚
染物質をリアルタイムに
観測できる。
また、水中ドローンに
より、水中における進入
困難な箇所の点検も可能
である。

ドローンを用いたイン
フラ点検は、地上から見
えない部分が見えるほ
か、高所点検のリスクを
低減できることが特徴
で、近接カメラ点検を行
うことができるので細か
な傷の確認や損傷状況な
どの確認が迅速にでき
る。

従来は、風力発電の風
車ブレードの傷の詳細点
検。輝度測定により照明
ムラの把握やチラつきな
どの防止。構造物クラッ

「AR道路附属物点検
支援システム」は、道路
標識や街灯など道路附属
物の点検を支援するタブ
レット端末向けアプリで
ある。

同システムを開発した
背景は、高度成長期に建
設されたインフラ構造物
の老朽化が進む中、点検
業務に関わる人材不足・
資金不足を改善する点検
技術の開発が求められて
きた。

従来の道路附属物の点
検は、点検者が調書を現
場に持参し、視認による
場所の特定を行った上
で、対象物の状態をメモ
し、事務所に戻って調書

ファイルを入力してい
た。この問題解決す
るために開発された「道
路附属物点検支援システ
ム」は、点検対象物の緯
度・経度情報が入力され
た調書ファイルと、タブ
レット端末に接続された
GPSシステムを組み合
わせる事で、現在位置に
近い場所にある点検対象
物の写真を自動表示し、
より効率的な点検が可能
となっている。

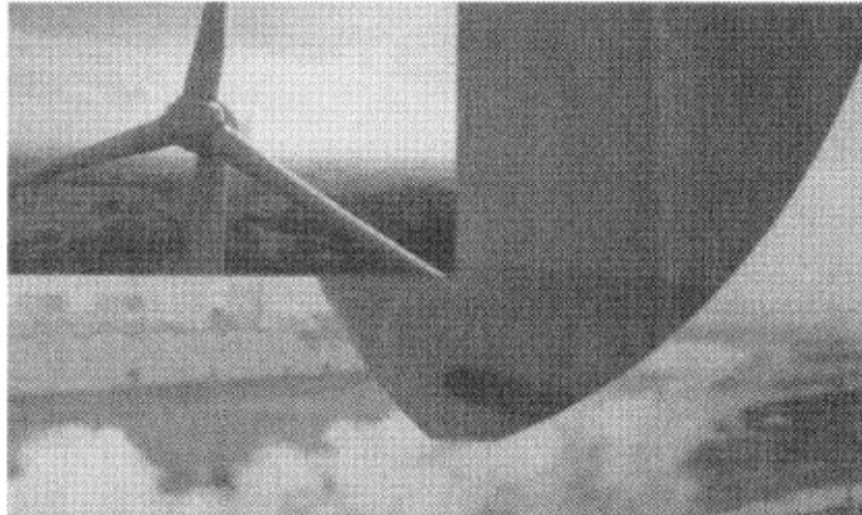
併せてタブレット端末
san.co.jp
https://www.furu

のカメラを活用する事
で、点検現場で調書の作
成業務まで行なえること
も特徴である。

その他、独自のAR技
術により、点検支援する
施設を明確にできる。ま
た、デジカメで撮影した
写真を施設部材ごとに自
動で振り分けられるので
現場写真の整理が簡単。
国交省をはじめ、各種自
治体のフォーマットにも
対応なども特徴である。



構造物クラック調査



風車・高所点検